

第6回 渋谷区立学校の在り方検討委員会 会議要旨

1 開催日時 令和3年2月5日（金）14時00分～15時30分

2 開催方式 Teams ビデオ会議（オンライン）形式

3 出席者

（委員）14人出席

（事務局）

生涯学習・スポーツ振興部長、教育政策課長、学務課長、教育指導課長、地域学校支援課長、教育センター所長、教育政策課教育庶務係・学校施設係職員

傍聴者 4人

1 開会

（委員長）

○4名の傍聴希望者あり。委員会に傍聴の許可を諮った結果、異議がなかったので許可。

（事務局）

○現時点で14名の委員全員が出席していることを確認し、会議は成立していることを報告。

○第5回検討委員会会議要旨について、あらかじめ各委員に確認していただき、修正意見を反映した会議要旨の確定版を配布したことを報告。

議事

・渋谷区学校施設長寿命化計画素案 パブリックコメントの結果について

・答申案について

（委員長）

議事に入る。議事は、「渋谷区学校施設長寿命化計画素案 パブリックコメントの結果について」及び「答申案について」である。事務局に資料の説明を求める。

（事務局）

○事務局よりパブリックコメントの結果、諮問に対する答申書案、学校施設長寿命化計画の変更点及び中学校生徒による生徒会交流会での意見（未来の学校）等を説明。

（委員長）

これから審議に入りたい。各委員から自由にご意見をいただきたい。

（委員）

パブリックコメントでは、従来の教育を変えず、民間を入れないでほしいという意見が多かったようだが、この委員会での点についてこれから議論をしていくのだろうか。後ろに戻るようだが。

（事務局）

パブリックコメントの取り扱いについては、その内容についてご審議いただくというよりも、参考に

しながら、答申の中身をご議論いただきたい。

(委員)

未来の学校という中学生の意見を聞いたのがうれしかった。

資料の説明において、可変性のある空間やフィジカルとデジタルの組み合わせなどについて、ポストコロナを理由として挙げていたが、ポストコロナが上記の案に対応する理由の全てだと、今後長きに渡って渋谷区の学校の在り方という考え方のベースになり得るのかというのが気になった。

可変的な空間の構成、インクルージョン教育など、縦割りで解決していくのではなく、すべての課題を横断して解決していくような着目点を教育委員会のスタンダードとしていかれたい。コロナの対応のためという一つの課題だけでなく、他の課題を解決するためにも必要という、横断的なものになっているとよい。

(副委員長)

未来の学校について、生徒にはどういう問いかけをしたのか。私たちにも参考になるので後で送っていただけるか。

(事務局)

未来の学校について審議しているという状況を生徒と共有したうえで、未来の学校はどのようなものがよいのか、フリーに意見をもらったものである。

(副委員長)

在り方検討委員会とリンクさせて意見を求めたということでよいか。

(事務局)

子供たちがどういうことを考えているのか、どういった学校像を描いているのか、事務局として認識しておきたいと考え、意見を募った。

(副委員長)

在り方検討委員会の委員との意見のキャッチボールも必要かと思う。可能であれば、お考えいただきたい。

(委員)

私の理解の範囲では、毎年年末に中学校8校の生徒会交流会を実施している。生徒会役員が一同に集まるものであるが、今年は teams を用いオンラインで行った。未来の学校というテーマについて、各校で意見を発表した。

(委員)

資料2-2の4「今後の教育・学校の在り方」について、今後選ばれる公立校になるために、新型コロナウイルス感染症のことを持ち出すと私立も公立も変わらないことになる。渋谷区の特徴を打ち出したほうがよい。

(委員)

選ばれる公立校には選ばれる公立幼稚園という視点も入れてもらいたい。園児を確保するのに苦戦をしているので、これからの在り方を考えるのは重要な視点と考えている。

(委員長)

選ばれるということとともに、選んでよかったということが重要である。

(委員)

パブリックコメントについて、区民の考え方はそれぞれあることが確認でき、これまでの議論の幅が広がった。

計画書については、具体的な姿が説明されていて、さらに各自治体の例が示されていることが、区民の理解を進めていくうえで重要。委員会で様々な意見を伺えたことは参考となった。

(委員)

感想に近いが、これだけまとめていただいて感謝の意を述べたい。パブリックコメントについては、皆さんによく知らされていないのではないかと。人口比では意見の数が若干少ないのではないかと。もっと区民の人に幅広く知ってもらったり、関連する人だけでなく外部の人にも意見を求めたりしたらどうか。

オンラインについても、コロナという言葉がついているのもったいない。ギガスクールについても渋谷区の動きはコロナの前から始まっていた。コロナがあろうがなかろうが、教育の現場を効果的かつ効率的にやるのが重要であり、コロナという枕詞をつけるのはどうだろうか。

生徒の意見が聞けたのは参考となった。今回の委員会は先生や教育の現場の人がいたことで、多面的な意見が聞けた。次回は生徒や先生の人を呼んで、現場の意見を聞けたらもっと実のある議論ができると思う。

(委員)

長寿命化計画の策定ということからスタートした委員会であったが、学校の建て替えにあたって未来のことを考えていこうというのは非常に良かった。建て替えをどうやって進めていくかという点では、複合化については反対意見があったが、建て替えは学校が前提となって、避難所、地域コミュニティがあるのであって、教育の質をあげていくのが重要である。この計画を具現化するための予算措置も為されている。ここからスタートだという思いを強くしている。

(委員)

2つ思ったことがある。在り方検討委員会はプランニングのフィールドであるが、盛り込まなくてはいけないことを盛り込んでいる。全体の工程において、バトンとしてこの資料を渡していく必要があるが、現時点ではまだまだ企画の段階であり、今後実行の段階となるとプライオリティをつけて判断をすることになる。せっかく関わったので、今後どのようにバトンがつながっていくのか、この先、期待を持って知りたいと思う。

もう一つは、行政はスタディと企画はできるが、今後は運営と成長をしていかないといけない。現状は、議論と設定に終わっているところがある。モラルだけでは教育の質はあがらないので、予算や評価により、実際成長していくところに、課題がある。プロジェクトマネジメントが進化していくとよい。

(委員)

毎回全員の意見をくみ取っていただきありがたい。避難所のことと、バリアフリーのことが計画に盛り込まれており、また生徒の意見にもそうしたことが入っていてよかった。

(委員)

感想になるが、計画の中身に関しては素晴らしい。コロナのことが書いてあるという点が気になったが、特に意見はない。この委員会で区民として企業として学校とどう付き合っていくのか、そうしたことに注視しながら、生活していく必要があると考えている。

(委員)

区側のメンバーとして参加させていただいた。答申書を拝見したが、委員の意見や思いは今後の学校の方向性において十分示唆している。計画について財政負担の軽減、平準化とバランスをとって実現していく。地域、住民に丁寧に説明をしていくことが重要である。

(委員長)

個人的な意見では、いろいろな意見をうまくとりまとめていただいた。ハードとソフトの両面が見えてきた。これからこうした答申を出した後、区民によく理解していただき、ギャップを埋めていくことが必要である。広報や周知が重要となってくる。

コロナだけでなく、国の少人数学級や、都の心のバリアフリーなどについても、渋谷区では、きめ細かな教育を先見的にリードして行っている。そうしたところを報告的なところで強調してもよい。今回、多面的な検討ができたと考えている。

複合化が反対だとの意見もあったが、教育のための複合化を具現化していくようなデザインや民間の知恵も使っていくという発想も必要になると思う。

副委員長などから、生徒の意見を活かすという試みは、東京都でも高校生が提案をするということもされていることを聞いている。幼小中、保護者の意見も生かしていくことが必要である。

皆様のおかげでここまでまとめられた。さらに意見があれば、事務局あてに伝えていただければ、全員に共有することも可能である。答申案や長寿命化計画に反映していきたい。

3 その他

(事務局)

今後の答申案の流れについては、再度、答申案、計画内容の修正を図っていく。答申の方法だが、委員長、副委員長と調整させていただき、事務局が代行して教育委員会に提出させていただきたい。

(一同意義なし)

4. 閉会

(委員長)

本日の議事はすべて終了。特に意見はないようなので、本来であればご挨拶をしたいところであるが、委員会を終了する。

(事務局)

委員の皆様方にはお忙しい中、審議にご協力いただきありがとうございました。最後に教育長よりご

挨拶させていただく。

（教育長）

委員会の議論については、担当者から十分に報告を受けている。未来の学校づくりという言葉は、渋谷区教育委員会の目標に入っているものである。協議が十分されたが、これからまさにネクストスクールとして、議論の確実な具体化に向けて行っていく必要がある。委員長、副委員長をはじめとして、審議、検討を重ねていただき、ありがとうございました。コロナ禍という誰もが経験したことがない状況で、いろいろな心配、ご不自由をおかけした。

（事務局）

今後どのように具体化していくのか。大きな節目を課されている。関係者、子供たちともコミュニケーションをとりながら検討を重ねていきたい。